

令和5年度 学習分析事業 改善計画 三原市立久井中学校

1. 本年度の結果

①学力定着分析 NRT 偏差値平均 (全国を50とする)

		国語	社会	数学	理科	英語	全体
1年	前年度結果 偏差値平均	/	/	/	/	/	/
	本年度結果 偏差値平均	54.0	51.1	52.1	55.3	52.4	53.0
2年	前年度結果 偏差値平均	49.7	50.3	49.3	48.9	52.3	50.2
	本年度結果 偏差値平均	46.7	46.1	47.8	47.1	52.6	48.1
3年	前年度結果 偏差値平均	48.8	49.8	48.8	47.2	51.5	48.9
	本年度結果 偏差値平均	48.8	50.6	50.0	50.8	50.9	49.8
全体	前年度結果 偏差値平均	48.7	49.5	48.3	47.7	51.1	49.0
	本年度結果 偏差値平均	49.8	49.3	50.0	51.1	52.0	50.3

②全国学力・学習状況調査 正答率平均 (第3学年対象)

教科	国語	数学	英語
前年度結果 (対県比)	61 (88)	43 (86)	/
本年度結果 (対県比)	74 (106)	62 (122)	46 (101)

2. 調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】(NRTをうけて)	【年度当初の学力について】(全国学力・学習状況調査をうけて)
<p>●国語科では、1年生が「目的に応じて話の内容をとらえる」(53.9%)、2年生が「敬語を正しく使い話す」(41.9%)、3年生が「情報の扱い方・敬語等」(50.6%)の正答率が低かった。</p> <p>●社会科では、1年生が「国際連合のしくみと働き」(67.6%)、2年生が「世界の古代文明と原始時代の日本」(37.1%)、3年生が「江戸時代の産業の発展や文化」(46.7%)の正答率が低かった。</p> <p>●数学では、1年生が「平面図形」(45.9%)、2年生が「比例と反比例」(38.1%)、3年生が「三角形の合同、証明、図形の性質」(57.3%)の正答率が低かった。</p> <p>●理科では、1年生が「電気の働きと利用」(64.2%)、2年生が「動物のなかま」(60.0%)、3年生が「電流の性質と働き」(51.5%)の正答率が低かった。</p> <p>●英語科では、1年生が「文字や語などを聞き取ること」(79.8%)、2年生が「長文の概要や要点を読み取る」(47.4%)、3年生が「基本的な単語や英文を書く」(52.3%)の正答率が低かった。</p>	<p>○国語科、数学科、英語科の3教科全てにおいて県平均を上回ることができている。</p> <p>●国語科では、「二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する」(観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる)問題の正答率が(47.6)で全国正答率(63.0)と最も差があり、全問題の中でも一番正答率が低かった。</p> <p>●数学科では、「空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ」(空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる)問題の正答率が(19.0)で、全国正答率(30.4)と最も差があり、全問題の中でも一番正答率が低かった。</p> <p>●英語科では、「バーベキューパーティーについての説明を聞き、質問の答えとして最も適切なものを選択する」(日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取るができるかどうかをみる)問題の正答率が(17.4)で、全国正答率(41.2)と最も差があり、全問題の中でも一番正答率が低かった。</p>

3. 課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標 (何を、どの程度達成するか)	達成のための具体的取組 (どのようにして)	スケジュール	検証の指標・目標
<p>【授業改善を通じた学力・学習意欲の向上】</p> <p>○全教諭が自由進度学習などの学びの選択肢と自己決定できる授業を行う。</p> <p>○全教科で生活と関連付け、学びの必然性を感じさせる課題設定をする。</p>	<p>①全体研修による目指す授業の共有、学力向上における年間スケジュールの共有を全教諭で実施</p> <p>②研究授業を活用しながら、必然性のある課題設定のもと、学びの選択肢と自己決定ができる場をつくり、それが有効であったかを授業評価シート等で協議する。</p> <p>③学力調査問題における正答率の低い問題やQ-Uの結果を分析してアシストシートの活用や実施時期等の対策を考える。</p> <p>④学力調査問題の類似問題アシストシートの実施</p>	<p>①5月</p> <p>②6月～12月</p> <p>③8月</p> <p>④2月</p>	<p>・Q-U2回目の学習意欲の数値 (全学級で全国得点+1以上)</p> <p>・作成した類似問題(テスト)の正答率 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 全学級80%以上)</p>
<p>【学級・学習集団づくり】</p> <p>○一人一人に役割をもたせ、主体性をもって計画・活動・振り返りをさせるような活動に取り組む場をつくる。</p> <p>○全学級において、生徒との定期的な教育相談・面談を実施し、教職員で共有できるように記録する。</p>	<p>①定期的(1学期に1回以上)に行う学級ごとの教育相談・面談</p> <p>②Q-Uによる実態把握と面談内容をもとに改善計画の立案</p> <p>③第2回Q-Uの実施・生徒評価アンケートの実施</p> <p>④Q-Uの結果分析 (成果と課題をまとめ、来年度の方針を決める)</p>	<p>①4月, 6月, 12月, 2月</p> <p>②8月</p> <p>③12月</p> <p>④2月</p>	<p>・Q-U2回目の一次支援の数値の向上 (全学年で1回目以上)</p>